

第一回海底下の大河若手の会集会 開かれる

平成 22 年 6 月 5 日、JAMSTEC 東京事務所にて「第一回海底下の大河若手の会集会」が開催された。集会に向けての準備期間が短かったにも関わらず、18 名の若手が日本各地から集まった。さらには、インターネットを介したオンライン通話によって九州と米国から 2 名の参加があり、合計 20 名の若手研究者が集結した。

本集会の特筆すべき点は、集まった若手研究者が行っている研究分野の多様さである。地球物理学、岩石鉱物学、同位体有機化学、無機化学、微生物生態学、生物地理学といったさまざまな分野の若手研究者が、分野の垣根を越えた議論を交わすのは、他の一研究分野の若手会では決して成し得ないだろう。このような比類をみない若手の集会を開催できたことは、異分野融合型大型研究計画「海底下の大河」ならではといえよう。

はじめに、世話人の加藤による若手会の概要説明および若手会が推進する国内留学制度（T-MORE プロジェクト）についての紹介があった。続いて川口による「大河計画」の概説が行われた。ここでは、学部生も含む多くの参加者によって、自身の研究分野にあまりなじみのない内容に関する白熱した議論が交わされた。異分野の若手研究者同士で知識を補い合うことで、お互い「海底下の大河」に対する理解が深まったことと思う。

続いて、5 名の学生（磯山、淵田、三好、菊池、柏原）による自身の研究紹介が口頭発表で行われた。発表においては、特に異分野研究の理解に必要不可欠な研究手法の説明が丁寧になされていた。本集会の発表趣旨である「異分野の若手にも理解できるようにわかりやすく話しをする」がよく実践されていたように思う。最後に、そのほかの参加者ほぼ全員によるポスター発表が行われた。普段質問しづらい基礎的なことからデータの解釈に至るまで、各ポスターの前で活発に議論が交わされた。口頭、ポスター問わず各発表に対していくつもの質問やコメントがあり、若手同士で積極的に異分野研究に対する理解を深めて研究視野を広げていこうという意識がひしひしと感じられた。口頭発表での熱い議論に思いのほか時間をとってしまい、議論の半ばでポスター発表を切り上げなければならなかったことだけが心残りである。

大河計画に属する若手研究者が積極的に異分野研究を理解し、若手自らが大河計画を推進していこうという熱い気概が感じられる集会であった。本集会で実現した異分野間の若手研究者同士のフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションによって、本若手会の目的である「研究分野を超えた若手研究者の相互交流のネットワークづくり」を十二分に果たすことができたと思っている。この異分野交流が各自の今後の研究によい影響を与えるものになることを願ってやまない。

最後になりますが、本集会を開催するにあたって、遠方地の学生のための旅費の援助および有益なアドバイスをくださった大河計画の研究者の皆様、そして事務的な作業を一手に引き受けてくださった事務担当の皆様には本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

東京薬科大学 加藤真悟
海洋研究開発機構 川口慎介



第一回海底下の大河若手の会集会の参加者集合写真。



集会の様子。